

問題点をあげるとすれば、授業開講のために相当の準備が必要になること、受入先企業の開拓が難しいこと、そのために多くの学生を対象にできないことなどがあげられる。仮に小規模であっても継続的に実施していくことがこれからの課題であろう。

将来の改善・改革に向けた方策

現在は、情報文化学科だけで行われているインターンシップを、他の3学科においても正課授業として取り込む方策を検討することが今後の課題である。学部全体の相当規模で行うことを前提に、他大学での実施状況調査や関連団体との交渉、学科の教育課程の再構築などを、タイミングよく一斉に検討・実施することが必要になる。

5 履修科目の区分

(1) カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

現状の説明

各学科では、選択科目群が多彩で幅広い分野を学ぶことが可能となっている。

点検・評価

幅広い科目群の設置は、視点を変えれば、学科の特色が曖昧になってしまって学生の学習を困難にしてしまう場合も考えられる。また、科目数の多さは、教員の負担が多くなるばかりか、学科の基本教育とは何かについての議論の必要性を放置する方向に作用してきたとも考えられる。

将来の改善・改革に向けた方策

卒業に必要な必修科目と選択科目の配分を変更して、必修科目を増やし学科の専門性を高め、学生の履修方針を明解にする必要がある。また、選択科目群を大幅に減らす方向で検討している。平成17年度カリキュラム改正では、4時間目までの時間割を実現できるように、カリキュラム全体をスリムにし簡素化して、また卒業要件も単純化して学生にわかりやすい授業体系の実施を目指している。

6 授業形態と単位の関係

(1) 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性

現状の説明

授業形態を、講義を主たる内容とする講義科目と演習・実技指導を主たる内容とする演習科目に分けて単位計算を行っている。講義科目には、半期科目で2単位、通年科目で4単位を単位とし、演習科目には半期で1単位、通年で2単位としている。